

投稿症例

1次診療病院における嘔吐治療 —動物用制吐剤の有効活用法—

奥田英令（大阪市住吉区・アニウェル動物病院 院長）



Key Points

- ① 嘔吐や食欲不振を伴う上部消化器疾患においては、在宅療法の治療プログラムに、内服薬の利便性を重視する必要もある。
- ② 動物用制吐剤「ボミットバスター錠」は猫の嗜好性がよく、1日1回で使用できるため、利便性が高い。
- ③ 消化性潰瘍薬プロトポンプ阻害剤は、H₂ブロッカー剤に比べ、胃酸分泌抑制作用が強く、持続性も高いことから、1日1回で使用できる可能性が高い。

はじめに

猫の上部消化器疾患の治療において、当院では医療用医薬品を中心に、制吐剤とH₂ブロッカーなどの薬剤を併用した治療プログラムを行ってきた。過剰興奮などの副作用は想定範囲内で、治療成績はある程度一定の成果を得ており、適切に管理できていた。一方、これまで少なかった動物用の消化器官薬だが、近年、「プロナミド錠」や「ボミットバスター錠」が発売された。しかし、治療プログラムの変更には戸惑いも多く、そのメリットとデメリットも投与経験が少ないなかでは不明瞭な面もあった。そこで今回、当院の治療プログラムに動物用医薬品「ボミットバスター錠」（メトクロプラミド製剤）の使用を検討したので、参考になれば幸いである。

プロフィール



症例：スコティッシュ・フォールド、去勢済雄、1歳齢

主訴：数日前から1日数回、嘔吐を繰り返す。また、嘔吐物に血が混じることで来院。

検査

触診・視診：全身に異常は認められなかった。

血液検査：とくに異常は認められなかった。

X線検査：食道下部に貯留物もしくは空気らしきもの、また、小腸と直腸にガスが認められたことから（図1）、逆流性食道炎を併発した急性胃腸炎と診断した。

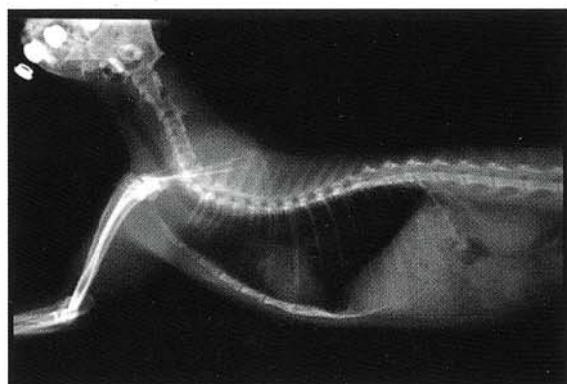


図1 X線画像

治療

飼い主に治療方針をいくつか提示し相談した結果、内服薬による在宅療法を行うこととした。初診であったため、どの程度経口で薬を飲めるか心配したが、経口投与の制吐剤「ボミットバスター錠」と消化性潰瘍治療剤「タケプロンカプセル」（ランソプラゾール製剤）の薬剤を処方し、経過が良好であれば7日後の再来院を指示した。

経過

7日後に再診した。X線検査では初診時にみられた陰影は消失していた。また、自宅では嘔吐などの臨床症状はみられなかった。臨床症状、全身状態およびX線検査から経過良好と判断し、治療（内服薬の投与）を終了した。

初診で、かつ1歳の猫の嘔吐という症例であったため、飼い主が自宅で錠剤をきちんと飲ませられるか懸念したが、飼い主は薬が比較的小さく投与しやすかったと評価しており、筆者は新しく使用を試みた薬剤に良い感触をもった。

治療プログラムの変更ポイント**制吐剤****従来の選択**

- メトクロラミド、1日2回
(プリンペラン錠)

**本症例の選択**

- メトクロラミド、1日1回
(ボミットバスター錠)



ボミットバスター錠はメトクロラミドを有効成分とする制吐剤で、ドーパミン受容体に作用する。プリンペラン錠は1日2回もしくは3回投与を指示されているが、ボミットバスター錠は溶解速度が遅く、1日1回の投与でよいとのことである。1日1回で使えるので飼い主には投与負担の少ない薬である。猫への処方は、薬を無理なく確実に飲んでくれるかが重要な要素であり、とくに今回のような初診の場合は猫の気性など、判断材料が少ないとため、投与回数が少なく嗜好性の高い製剤を第一選択とした。

また、ボミットバスター錠は猫の嗜好性を考慮したフレーバー添加（味付け）もなされている。メトクロラミドの副作用として過剰興奮が報告されているが、ボミットバスター錠は溶解速度が異なるため、副作用の軽減を期待し、今後の課題として検討していきたい。

消化性潰瘍治療剤**従来の選択**

- ラニチジン、1日2回
(サンタック錠)
- アルサミン錠

**本症例の選択**

- ランソプラゾール、1日1回
(タケプロン錠)



タケプロン錠はランソプラゾールを有効成分とするプロトンポンプ阻害剤である。 H_2 ブロッカーに比べ、より強力な臨床効果（ヒト）と1日1回で使える点で飼い主には投与負担の少ない薬である。獣医領域における臨床成績は明確にされていないが、ヒトにおける臨床実績（逆流性食道炎など）から、同症例の臨床効果が期待された。ランソプラゾールの副作用として、ヒトでは過敏症、肝機能障害、精神神経系の異常などが報告されている。獣医領域においての副作用報告はないが、今後の課題として検討していきたい。

まとめ

当院では、上部消化器疾患に対して、これまで医療用ブ

リンペランやラニチジンを使用してきた。そもそも医療用医薬品はヒトの投与量に合わせて設定されたものであり、動物に対する有効な投与量が明確でないことや、錠剤の分



割が必要であったり、すりつぶして分包しなければならない。また、飼い主においては1日の投与回数が多かったり、苦みなどクセのある薬剤は動物が口に入れさせないこともあります。投薬の遵守が飼い主の負担となる場合も少なくない。このような場合、せっかくの内服薬も効果を発揮できない。今回使用した「ボミットバスター錠」は動物的好むフレーバーで仕上げられており、前述の問題点が改善された薬剤だと思われた。

動物用医薬品は医療用と比較して単価が高く、これらの採用は経営の観点から、必ずしも経済的とはいえない。また、

新たな薬剤の採用は、副作用の有無やその頻度など、実際に使ってみないと分からぬ点が多く、使い慣れた従来の治療プログラムの変更に奥手になってしまいがちである。しかし、我々臨床医は、治療の向上はもちろんのこと、診療の煩わしさを改善することや、飼い主にとって治療法および薬剤の選択肢を多くし、最良を感じていただける獣医療を提供するよう心掛けることも大切であるように思う。例えば、投与回数や来院回数を減らすこと、飼い主の理解を得られやすい薬剤を検討することも、重要な獣医療の一貫であると思われた。



選択薬剤のポイント (注) 筆者による考察

名称	分類	特徴
プリンペラン錠 (アステラス製薬)	医療用；メトクロプラミド 消化器機能異常治療剤	1日2~3回 消化器機能異常による恶心や嘔吐、食欲不振の治療薬。消化器機能をつかさどる脳幹部に直接作用する。また、胃や腸に対する運動亢進にも作用する。
ボミットバスター錠 (共立製薬)	動物用；メトクロプラミド 制吐・消化器機能異常治療剤	1日1~2回 動物用のメトクロプラミド製剤で犬猫に使用することができる。基剤に嗜好性（魚フレーバー）を高めたものを含むため、猫への給与も簡単である。また、医療用プリンペランに比べ、1日1回で使用できる利便性も高い。
プロナミド錠 (DSファーマ・ アニマルヘルス)	動物用；モサブリド 消化管運動機能改善剤	1日2回 上部消化管運動の機能低下に伴う食欲不振や嘔吐の治療薬。消化管内在神経叢にある5-HT4受容体を刺激し、アセチルコリンを増加させて消化管運動や胃排出運動を促進する。
ゾフラン錠 (グラクソ・ スミスクライン)	医療用；オンドンセトロン 5-HT ₃ 受容体拮抗型制吐剤	1日1回 抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）による恶心や嘔吐を抑える薬。抗がん剤投与により、小腸粘膜の腸クロム親和性細胞（EC細胞）から5-HT（セロトニン）遊離が刺激され、迷走神経上の5-HT3受容体に結合して嘔吐中枢を刺激する。オンドンセトロンは5-HT3の受容体に対し拮抗作用を示し、嘔吐を抑制する。
ザンタック錠 (グラクソ・ スミスクライン)	医療用；ラニチジン H ₂ 受容体拮抗剤	1日2回 胃潰瘍や十二指腸潰瘍の治療薬。胃粘膜壁細胞のヒスタミンH ₂ 受容体を選択的に遮断し、持続的な胃酸分泌抑制作用を示す。入手しやすく、安定した効果が得られるなどの理由から、ラニチジン製剤を使うことが多い。
ガスター錠 (アステラス製薬)	医療用；ファモチジン H ₂ 受容体拮抗剤	1日1~2回 胃潰瘍や十二指腸潰瘍の治療薬。作用機序はラニチジン製剤と同じであるが、作用の持続時間が長い。動物医療では、1日1回で使用されることが多いが、その効果は検証されていない。
タケプロン錠 (武田薬品)	医療用；ランソプラゾール プロトポンピンヒビター	1日1回 胃潰瘍や十二指腸潰瘍の治療薬。ラニチジンやファモチジンと異なり、壁細胞で産生されるH ⁺ を胃内腔に輸送するプロトポンプを抑制し、胃酸分泌を抑制する。その作用は、H ₂ プロッカーより強力で持続性にも優れる。医療分野では、H ₂ プロッカーの販売に比べ1.93倍と使用頻度は拡大している（富士経済）。
アルサミン錠 (中外製薬)	医療用；スクラルファート 胃炎・消化性潰瘍治療剤	1日3回 胃潰瘍や十二指腸潰瘍の治療薬。潰瘍表面のタンパク質を覆い、胃液から病変部を保護する。組織を修復するムチンや結合組織の合成を促進する。胃酸分泌の抑制剤と併用することが多い。潰瘍再発防止には、H ₂ プロッカーよりも優れる。しかし、アルミニウム製剤なので、ニューキノロン系抗生物質やジギタリス製剤との併用においては、スクラルファートがこれらを吸着し薬効を減少させる可能性が指摘されているので、併用薬には注意が必要である。

製品名の出典：日本医薬品集 医療薬2011（じほう）、動物用医薬品医療機器要覧2010年（日本動物用医薬品協会）

日常診療でよくみる嘔吐、下痢には 3つの バスター[®]錠が効く

日本製



嘔吐には利便性の高い ボミットバスター[®]錠 5mg

SID
~~BID~~

1st.



1日1~2回の投与

投与回数が少なく、飼い主や動物への負担を軽減します。



嘔吐のファーストチョイス

嘔吐中枢に直接作用して嘔吐を抑えます。消化器系にも作用し食欲不振も改善します。
検査等で原因が特定できない場合でも内科的対症療法で改善がみられることがあります。

美味しい、小さい、犬猫にやさしいタブレット

犬猫への投与が簡単な、魚風味のタブレットです。

下痢には ディアバスター[®]錠 で素早く止瀉 ビオイムバスター[®]錠の併用で 完治率アップ



1st.



異なる薬理作用で効果アップ

止瀉作用（ディアバスター[®]錠）と整腸作用（ビオイムバスター[®]錠）により、
完治率（96.55%）が向上し、完治までの日数（平均2.95日）が短縮しました。



/Jpn.Vet.Med.Assoc., 62(2009)/

下痢のファーストチョイス

ディアバスター[®]錠で、粘膜を保護し、炎症・消化器機能異常を改善します。
ビオイムバスター[®]錠で腸内細菌叢を整え、消化・吸収を正常化します。

美味しい、割りやすい、飼い主にもうれしいタブレット

魚風味の柔らかい錠剤なので、簡単に分割できます。

製造販売業者

共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南1-5-10

開発元

獣医医療開発 株式会社
埼玉県さいたま市大宮区吉敷町1-133-1